

0226524

威信

县投资指南



威信县经济贸易局

二〇〇六年五月

横山 重校訂 鎌倉時代物語集一

住吉物語集
(本文篇)

東京 大岡山書店刊行

昭和十八年十二月五日印刷
昭和十八年十二月十日發行

住吉物語集(本文篇)

定價 六圓五拾錢
特別行爲 貳拾錢
稅相當額
合計 六圓七拾錢

校訂者 横山 重

發行者 長井 秀雄
東京都赤坂區氷川町九番地

印刷者 東東二一六 龜谷 良一
東京都本郷區眞砂町三六番地

出文協承認 あ 380057 號
1.500 部

發行

東京都赤坂區氷川町九番地
振替東京六四九五二
會員番號第一〇五〇一三號

大岡山書店

配給元

東京都神田區淡路町二丁目九番地
日本出版配給株式會社

例言

一、住吉物語は傳本が多い。版本は、比較的に傳本が少くて、古活字版を五種と、寛永九年の整板本（後印の繪入本を含めて）とを見得たのみであるが、寫本や、繪卷や、奈良繪本の類は、非常に多い。そして、此等は皆、ある程度、文章が違つてをり、中にはその文章の長短の差が著しいものもある。よつて、その代表的なものゝ本文を掲出し、やがて諸本の解題を行ひ、而して將來の研究に資したいと思ふ。

一、本集に掲出したものは、最善本のみと云ふことは出来ないかも知れないが、皆、一方を代表し得る本である。殊に、從來、一般に知られなかつた本を、こゝに四本まで掲出することの出来たのは、校訂者の喜びとする所である。

一、本集には七本を掲出した。が、掲出すべき本が、これで終つたといふのではない。今後猶、二三本は掲出しなければならぬであらう。そして、見得る限りの諸本の解題を行ひ

たい。それによつて、漸く「住吉物語」は、學徒の研究の對象となり得るであらう。よるべき本文がなくして、直ちに研究的發表を行ふことの危険なことは、過去に於いて、我等の屢々、經驗して來た所である。

一、校訂の方針は大體、次の通りである。

1 本文はすべて、原本どほりとし、原本の面目を保存する事につとめた。

2 誤字、脱字、かな遣ひの誤り等も、原本どほり、そのまゝとした。その内、やゝ氣づき得たものは、最少限度に、(…カ)と傍註を施し、或は(マ、)と註した。

3 本集に於いては、繪卷を除いて、その他の諸本は、原本の丁數を入れ、頁のかはる度に、別行とした。やゝ讀みにくいのであるが、再び原本に就く場合の便宜を考へ、又、その他の諸本を調査する場合の便宜をも考へたのである。

4 異體の假名や、略字などは、やむを得ず、現行の文字に改めた。又、かな文字か、漢字か、やゝ判定に苦むやうな場合は、たとへば、足身などは、多く假名文字と認める方へ傾いた。

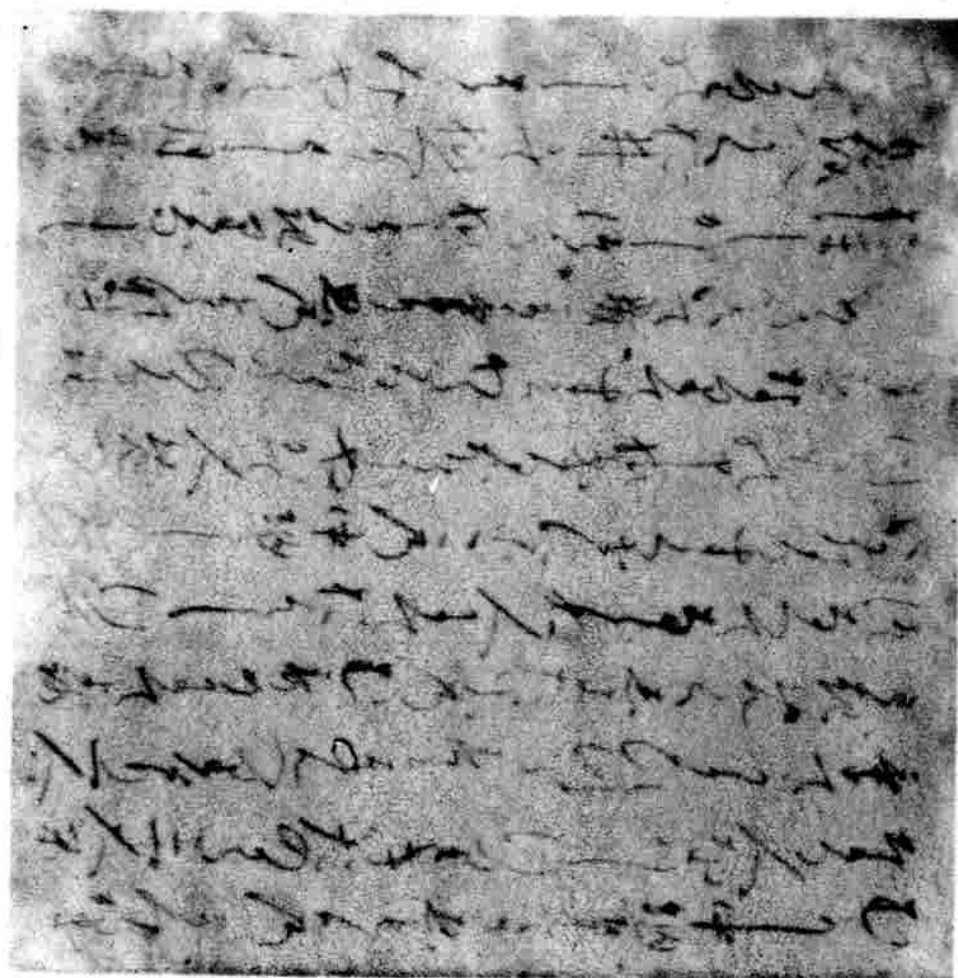
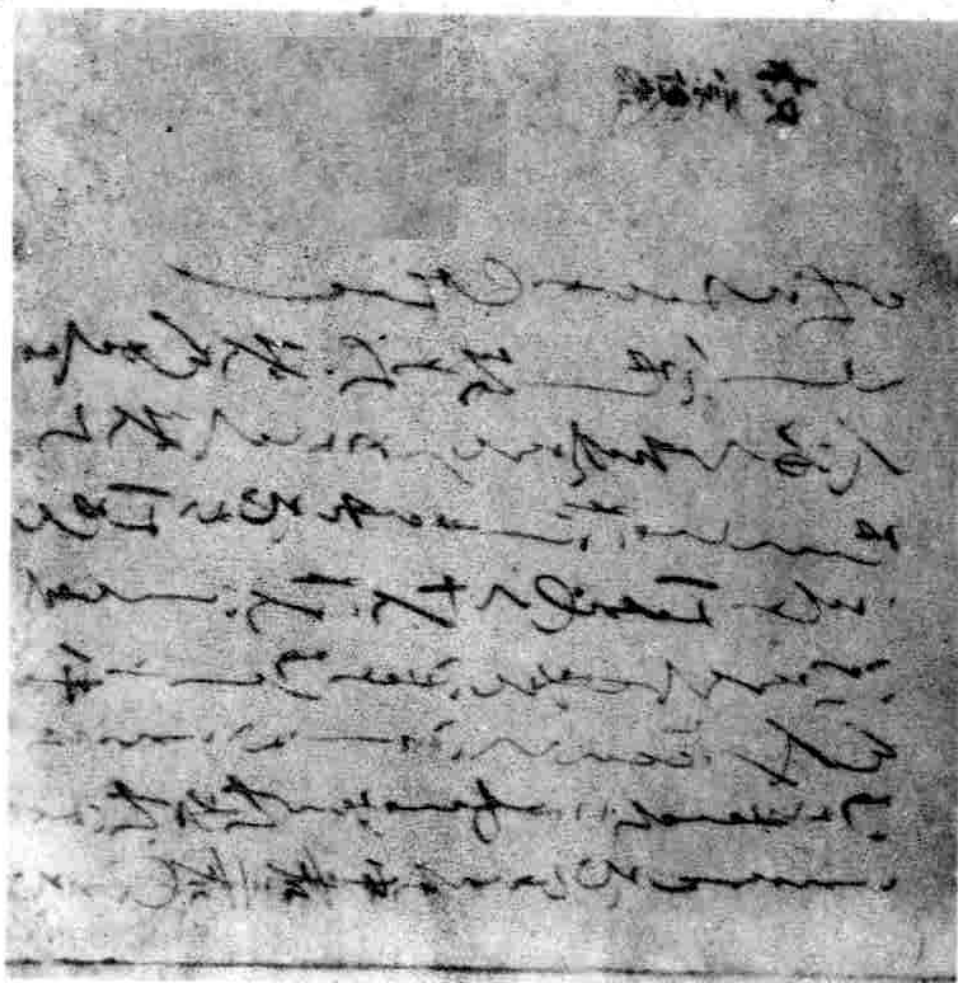
一、恩賜京都博物館、内閣文庫、成田圖書館、藤井乙男博士、眞銅甚策氏、戸川濱男氏は、

御所藏の御本の披見を許され、且つ、その翻刻を本集に収載することを許された。謹んで感謝の辭を捧げる。ただ、校勘の作業について、もし誤りあらんかと、ひそかに恐れてゐる次第である。

一、本書については、菅原卓氏の御援助を得た。又、太田武夫氏、野口英一氏、新井信之氏等の、熱心なる御援助と御協力とを得た。謹んで感謝の辭を捧げる。

昭和十八年十月一日

校 訂 者



末卷頭卷

本寫筆俊宗枳



卷繪 期末代時町室 藏者訂校

Handwritten text in a cursive script, likely a form of Tibetan or Sanskrit, arranged in approximately 12 horizontal lines across the upper portion of the page.

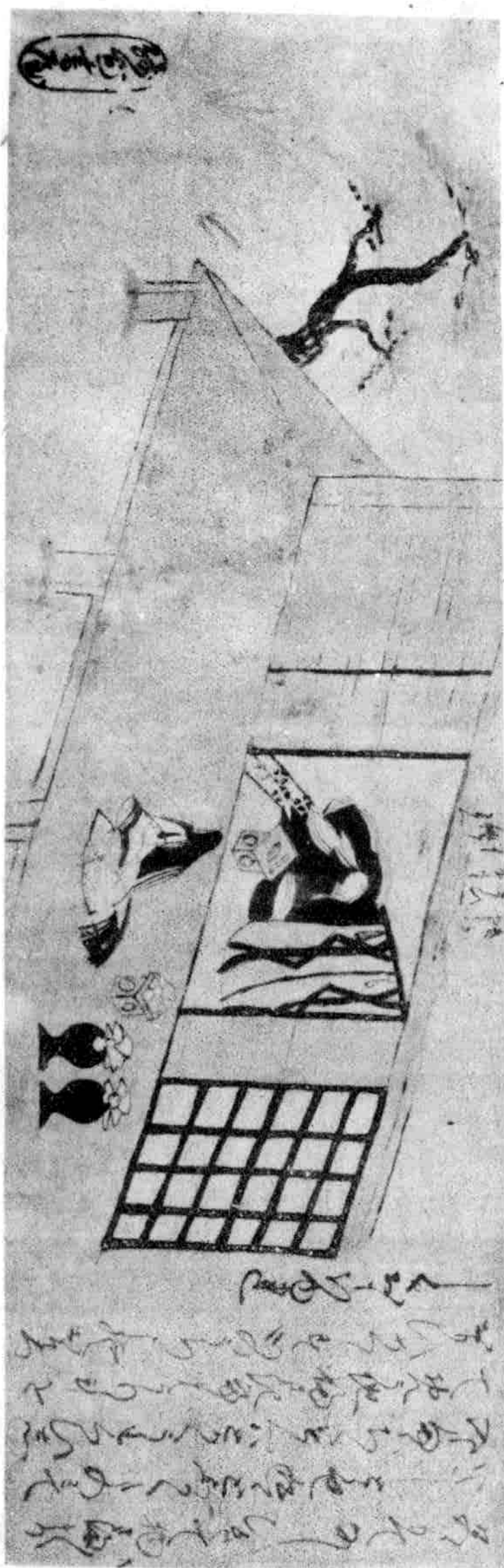


後書抄御家大人の御覽に御下無行也

おや人の心を思ふべし—流るる水は
ひくひと流るる水は—流るる水は
流るる水は—流るる水は—流るる水は
流るる水は—流るる水は—流るる水は
流るる水は—流るる水は—流るる水は
流るる水は—流るる水は—流るる水は
流るる水は—流るる水は—流るる水は
流るる水は—流るる水は—流るる水は

後書抄御家大人の御覽に御下無行也
おや人の心を思ふべし—流るる水は
ひくひと流るる水は—流るる水は
流るる水は—流るる水は—流るる水は
流るる水は—流るる水は—流るる水は
流るる水は—流るる水は—流るる水は
流るる水は—流るる水は—流るる水は
流るる水は—流るる水は—流るる水は
流るる水は—流るる水は—流るる水は

後書抄御家大人の御覽に御下無行也



葉一第簡斷卷繪古 藏氏男濱川戶

目次

例言

一 すみよし (枳宗俊筆古寫本成田圖書館藏)……………一

解題 四三

二 [住吉物語] (藤井乙男博士藏寫本)……………六七

解題 四六

三 [住吉物語] (校訂者藏繪卷)……………一三三

解題 四七

四	住吉物語	(眞銅氏藏大形古奈良繪本)……………	一八九
---	------	--------------------	-----

	解題	四三六
--	----	-----

五	住よし物語	(恩賜京都博物館藏繪卷)……………	三〇一
---	-------	-------------------	-----

	解題	四四六
--	----	-----

六	住吉物語	(古活字版十行本)……………	三四七
---	------	----------------	-----

	解題	四四七
--	----	-----

七	[住吉物語斷簡]	(戸川濱男氏藏)……………	四二三
---	----------	---------------	-----

	解題	四五〇
--	----	-----

すみよし (枳宗俊筆古寫本)

(原題)

すみよし

むかし、中納言にて、さるもんのかみかけたる人、をはしけり、きたのかた二人かけて、かよひつゝ、すみはんへりけり、一人は、ときめく、しよたいふのむすめにて、よろつ、なへてならぬ人にておはしける

いかなるすくせにか、この中納言、源語によしのひつゝ、もの申給けるほとに、やかて、人めつゝまくなりて、すみわたるほとに、ひかる程のひめきみ、いてきにけり、思のまゝなれば、おほしかしつき給こと、かきりなし、日をへて、おゐゝて給へり

とし月、(マ)かなりて、八はかりのとし、はゝみや、れいならず」(一オ)

なやみ給、日をへて、おもくのみなり給けれ(はカ)□、中納言にきこへ給、われ、はかなくなりなは、このおさなき人のため、あはれなるへし、われなからんありさま、(マ)みく(なみくカ)ならんありさま、せさせ給な、いかにも、御か女房とに、たてまつり給へと、なくくきこえ給て、ことむす

めたちに、おほしをとすなと、の給へは、中納言、われも、をなしおやなれは、おとりてやはなと、かたらひて、あかしくらすほとに、このよあはれに、つねなきところなれは、ついにはかなくなりて、むかしかたりに、なりにけり、中納言は」

われも、おなしみちにと、かなしみ給へと、かひなし

さるほとに、のち／＼のわさのことも、さるへきやうにして、四十九日、はてぬれは、もとのきたのかたへ、わたり給ぬ

ひめきみ、をさなきころに、このはにつけては、こみやのことを、こひかなしみ給けるに、中納言さえ、わたり給ぬれは、いと／＼つれ／＼にて、ふたはこのはき、つゆをもけに、みえければ、めのと、／＼か／＼なくさめてそ、すきはん□りける

中納言、つねは、みきこへに、わたり□□り給へは、なをしのそてをとらへて、したひ給へるさま、こゝろくるしくそ、おほしける、とかく」(二オ)

こしらへをきて、かへり給ては、ことむすめたちと、ひと／＼ころに、すませまほしく、思なから、むかしもいまも、まことな□ぬ、をやこの中はとて、めのとのもとに、すませきこえけり